

ディプロマ・ポリシー			カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って190単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（薬学）の学位を授与します。</p>			<p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような人材養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>豊かな人間性と高い倫理観を備え、高度な専門知識と臨床能力を身につけ、医療をはじめとする多様な分野で社会貢献できる有為な人材を養成するために、共通教育科目・基礎教育科目に続いて、薬剤師教育カリキュラムのガイドラインである「薬学教育モデル・コアカリキュラム」（令和4年度改定版、文部科学省薬学系人材養成の在り方に関する検討会）に準拠した科目と本学独自の科目を適切に配置したカリキュラムに則り、薬剤師として求められる基本的な資質・能力を生涯にわたって研鑽できることを目標に、次のように実施します。</p> <p>1) 1年次は、学習習慣の確立を重視し、共通教育科目および基礎教育科目により基礎的科学的力を養い、高校から大学への学びをスムーズに繋げるとともに、早期臨床体験を取り入れ、薬剤師への志向と学修意欲の向上を図ります。</p> <p>2) 1～2年次は、薬学に必要な基本的な科学知識・技能を養うための基礎薬学を学びます。</p> <p>3) 2～4年次は、薬物治療の基盤となる医療薬学と健康の維持・増進と環境衛生に関わる衛生薬学を学びます。</p> <p>4) 4～6年次は、4年次の臨床事前学習、5年次の病院および薬局での臨床実習、臨床実習後演習を通じて臨床薬学を学び、薬剤師として医療に貢献できる知識・技能・態度を養います。</p> <p>5) 4～6年次は、卒業研究により、薬学的課題に取り組む姿勢、倫理性、問題発見・解決能力、論理的な思考力、プレゼンテーション力を養います。また、薬学知識の統合と、個々のキャリア形成を養うための知識や技術を身につけます。</p> <p>6) 全学年を通して、語学力および薬剤師に必要なコミュニケーション力と、医療における多職種連携を理解・実践するために必要な協調性を養います。また、医療倫理と薬剤師に関わる社会の仕組みや法規制を学び、地域における保健・医療・福祉での個人情報やデータの取扱い、地域連携などを学びます。</p> <p>教育課程全般を通じて、通常の講義だけでなく、実習、双方向型授業、問題解決型演習といった教育手法を活用し、学生の理解を高めます。年度終了時に、客観試験と、自己評価を取り入れたパーソナルポートフォリオを用いて学修の達成度を振り返り、次年度の学習意欲に繋がります。</p> <p>本教育課程の共通教育科目、基礎教育科目、基礎薬学科目、医療薬学科目、衛生薬学科目の講義科目については、論述試験、客観試験と課題レポートによって習熟度を評価します。実習科目については観察記録、レポート、成果物によって主に技能や態度を評価します。臨床薬学科目は、論述試験、客観試験、臨床に関する実地試験や観察記録によって評価します。卒業研究は、年度毎にポートフォリオによって達成度を評価し、卒業研究発表・論文作成をもって総括的評価を行います。</p>	<p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <p>1) 医薬品や病態・薬物治療の基本となる基礎学力（化学・生物・数学・英語・国語）を有し、将来薬剤師有資格者として、医療の発展に貢献したい、あるいは、健康・福祉その他の分野で社会貢献したいという強い意欲がある。</p> <p>2) 医療や健康・福祉などに携わる者としての使命感と倫理観を有し、思いやりと協調性、コミュニケーション能力を身につけようとする姿勢がある。</p> <p>3) 科学的な思考力と問題提起・解決能力を身につけることの重要性を理解できる。</p> <p>4) 自ら学ぼうとする強い意欲、地道に努力する勤勉さがある。</p>
1. 知識・理解	1-1	生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての法的責任を理解し、使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重する倫理観を備えている。		
	1-2	生きる力の源となり、多様化・複雑化する社会を理解するための豊かな教養を身につけている。		
	1-3	薬剤師に求められる専門性を発揮するための科学的根幹となる基礎薬学の知識を修得している。		
	1-4	責任ある薬物治療を実践するための基盤となる医療薬学、薬物治療の個別最適化を実践するための臨床薬学に関する知識を修得している。		
	1-5	健康の維持・増進と環境衛生に貢献するために必要な衛生薬学の知識とデジタル社会における基盤的リテラシーを修得している。		
2. 技能・表現	2-1	社会貢献とキャリア形成につながる基礎薬学的な科学技能を備えている。		
	2-2	的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等を科学的根拠に基づいて実践する技能を備えている。		
	2-3	患者・生活者、医療者と良好なコミュニケーションとり、考えや発想が互いに共感できるような信頼関係を築く行動力を備えている。		
	2-4	多職種連携を構成する人々の役割を理解し、多様な人と協働して、患者・生活者中心の医療・福祉・公衆衛生を実践する行動力を備えている。		
3. 思考・判断／ 態度・志向性	3-1	患者・生活者の立場と置かれた状況を把握し、医療人として利他的な態度で他者を尊重する姿勢を備えている。		
	3-2	進歩する医療や科学について、自己および他者と共に研鑽しながら生涯にわたり学び続ける意欲と態度を備えている。		
	3-3	医療・福祉・公衆衛生における課題を見出し、解決するための科学的な視点と失敗を恐れず挑戦する姿勢を備えている。		